

【2019年秋期】会社役員・経営幹部シリーズ

経営・マネジメント

経営戦略・事業戦略の見極めと判断ポイント

自分と組織の「戦略リテラシー」を高める

セミナーのねらい

地位が上がるに伴い「自分が経験したことのないビジネス」について、判断や意思決定を求められる機会が増えていきます。

少し詳しく説明するなら、求められるのは

- ① 事業知識のキャッチアップ：情報の量と質の確保
 - ② 迅速な分析と評価：ただし目先だけに捉われない、中期的な観点の確保
 - ③ 判断と意思決定：場合によっては意思決定の保留/代替策の準備
 - ④ 経営の共通語（＝株主に通じる言葉）での表現です。
- また、自身が統括する部門・部下に対しては
- ⑤ 経営方針の「共通語」での伝達と解説
 - ⑥ 自身の「部門方針」「事業戦略」の「共通語」での提示
 - ⑦ 定式化された事業戦略フォームの共有
 - ⑧ 部下への要請1：経営者目線で事業を見る習慣の形成
 - ⑨ 部下への要請2：戦略オプションと判断を求める
- ことが基本的な要請となるでしょう。

この講座では、①～④については、取締役会、役員会や経営会議、⑤～⑨については、役員・経営幹部が主催する部門会議・ミーティングを想定して、それぞれの場面で、最大のパフォーマンスを組織として実現していくための方策について、戦略論を中心に解説していきます。

戦略論や戦略概念のほとんどは学者の空理空論ではなく、成功企業の経験に基づくものです。それは、プロの投資家・経営者の共通語になっています。これを習得することで、受講された方と組織の能力を高めていくことを目指します。

武藤 泰明 氏

早稲田大学教授

1980年東京大学大学院修士課程修了、三菱総合研究所入社。同社主席研究員を経て2006年より早稲田大学スポーツ科学学術院教授。NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会理事、独立行政法人鉄道・運輸機構特別顧問なども務める。

著書は『ビジュアル経営の基本』『Q&A経営100の常識』『持ち株会社経営の実践』『経営用語辞典』（以上、日本経済新聞出版社）『プロスポーツクラブのマネジメント』『ファンド資本主義とは何か』（以上、東洋経済新報社）『グループ経営7つの新常識』（中央経済社）『人手不足時代の人事戦略』（日本能率協会マネジメントセンター）『未来予測の技法』（PHP研究所）など多数。



プログラム

- 経営戦略・事業戦略の基本的な枠組と基礎知識
- 経営戦略・事業戦略のキーワード解説
- 「初見」データの分析力を高める
- 予測と戦略構築
- Co-Workによる組織能力の構築

日時

2019年11月6日（水）

13:30～17:00

会場

日本経済新聞社6階
 「日経・大手町セミナールーム1」
 （日経カンファレンス&セミナールーム内）

受講料

44,000円（税込み）

対象者

マネージャー、経営者、経営幹部、
 次世代幹部、部長、課長、執行役員、
 事業部長

レベル

実践

WEB検索番号：P1901700